# 道徳科学習指導案

指導者　三原市立田野浦小学校　小出　裕義

**１　学　年**　　第３学年
**２　主題名**　　「友だちの気持ちになって」（Ｂ　友情、信頼）
**３　教材名**　　「たっきゅうは四人まで」（日本文教出版）
**４　主題設定の理由**

**（１）主題観**

本主題は、第３学年及び第４学年の内容項目Ｂ［主として人との関わりに関すること］の(10)「友情、信頼」を基に設定している。

友達は家族以外で特に深い関わりをもつ存在であり、友達関係は、共に学んだり遊んだりすることを通して、互いに影響し合って構築されるものである。また、世代が同じ者同士として、似たような体験や共通の興味や関心を有することから、互いの考え方などを交え、豊かに生きる大切な存在として、互いの成長とともにその影響力を拡大させていく。よりよい人間関係を築くには、互いを認め合い、学習活動や生活の様々な場面を通して理解し合い、協力し、助け合い、信頼感や友情を育んでいくことが大切である。そのため、友達のよさを発見することで友達のことを理解したり、友達とのよりよい関係の在り方を考えたり、互いに助け合うことで友達の大切さを実感したりすることが、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度につながっていくと考える。

**（２）児童観**

本学級には、男女の区別なく学び合ったり、遊んだりする児童が多い。友達のことや気持ちを思いやり、行動に移す児童もいるため、身近な友達への感謝の心を抱く場面もある。そのため、その感謝の心が「自分も友達に対してできることをしたい。」という相手を思う心につながり、学級の中に助け合い、支え合おうという雰囲気も生まれている。ただ、自分の利害を考え、相手の気持ちを考えず行動してしまうなど、この時期ならではの児童らしさも見られる。

10 月下旬に実施した Q-U テストの回答結果（一部抜粋）は、以下の通りである。

| 項目 | 質問項目 | 回答 | |
|---|---|---|---|
| | | 肯定 | 否定 |
| 1 | クラスの中に仲の良い友達がいますか。 | 100% | 0% |
| 2 | あなたのクラスはみんなで仲良く協力していますか。 | 100% | 0% |
| 3 | クラスの人と色々なことをするのは楽しいですか。 | 100% | 0% |
| 4 | 自分から友達を遊びに誘っていますか。 | 100% | 0% |
| 5 | 困った時に話を聞いてくれる友達がいますか。 | 88% | 12% |
| 6 | あなたの気持ちを分かってくれる人がいますか。 | 92% | 8% |

全児童が「仲の良い友達がいる。」「仲良く協力している。」「クラスの人と色々なことをするのは楽しい。」「自分から友達を遊びに誘っている。」と回答していることから、友達が自分にとって大切な存在であると感じている児童が多いと考えられる。しかし、「困った時に話を聞いてくれる友達がいない。」「自分の気持ちを分かってくれる人がいない。」と数人が回答していることから、「もっと自分に寄り添ってほしい。」「今の友達関係に十分満足していない。」などと感じている児童もいるのではないかと考える。これらの結果から、本教材をきっかけに、「自分にもっと寄り添ってほしい。」「友達にもっと自分のことを理解してほしい。」などの相手の行動や思いに任せる受動的な考えではなく、「困った時は、友達を信じて相談してみたい。」「困っている友達を助けることができるようになりたい。」「友達と仲良くなるためにできることを考えたい。」など、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度を育てる契機としたいと考える。

**（３）教材観・指導観**

本教材は、自分本位の考え方で友達（とおる）を傷つけた中心人物（しゅん）が、どうすれば今後よりよい友達関係を築くことができるかについて、三人の友達と共に考え、行動を起こすという話である。次の日、どきどきしながらとおるを待つしゅんと三人の友達の思いについて考えることを通して、友達との関わり方について、今までの経験を振り返りながら自己を見つめ直し、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度を育んでいける教材である。

指導に当たっては、友達との関わり方について、今までの経験を振り返りながら自己を見つめ直し、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度を育んでいけるように、発問を工夫する。

導入では、友達との関係で困った経験とその時の心情を交流することで、「確かに自分もどうすればよいか分からなくなったことがあるな。」と、本時のテーマを自分事として捉えることができるようにする。その後、「みんなは友達と仲良くしたいんだよね。それなのにどうして、仲良くしたくても、仲良くできないのかな。」と児童に疑問をもたせ、「友達と仲良くするには？」という本時の課題を設定する。

展開前段では、まず、友達に相談した時のしゅんの気持ちを問う。ここでは、一人で解決しようとしたしゅんが悩み、友達を信じて相談するという行動に出た際の思い（自分が悪かった。一人じゃ無理だ。友達ならきっと一緒に考えてくれる。これから仲良くなりたい。）を引き出す。次に、相談された三人の気持ちを問うことで、相談された側の思いについて、別の視点で考える機会を作る。この発問では、しゅん

と三人のそれぞれに共通して、相手の気持ちを考えることができなかった後悔の気持ちが生まれていること、どうすればよいか分からず困惑していること、そしてその思いが、よりよい友達関係を築くためにできることをしたいという主体的な思いにつながっていることに気付かせる。また、「謝るだけではなく、どうして、五人で遊ぶことにしたのかな。」と問い返しの発問を準備しておき、許してもらいたいという心の奥には、相手の立場に立って真剣に考える態度や友達と仲良くなりたいという主体的な思いがあることの理解を更に深める。最後に、早めに登校し、校門でとおるが来るのをどきどきしながら待つ四人の思いを支えている考え方、感じ方、生き方を考えることができるように、この時の心情を問う。友達の気持ちを考えること、一人ではなく、友達と助け合って行動しようとすることなど、よりよい友達関係の構築に向けた主体的な態度に目を向けさせ、本時のねらいへ迫る。

展開後段では、板書に残したキーワードや授業で考えたことを活用して、グループごとに課題に対する考えを言語化する時間を確保する。教師が言語化するのではなく、児童自身が学んだことを言語化する時間を設けることは、一時間の学びの深まりにつながると考える。その際、自分の意見をもって話し合いに臨めるように、グループトークの前に、個人思考を取り入れる。また、児童が話合いで言語化した考えと本教材を結び付けて考えさせる場面を作ることで、自分達が導いた考えの価値に気付くことができるようにする。

終末では、学習を通して考えたことや新たに分かったこと、学んだことなどについて考え、今後への思いや課題について考えさせるために、授業の振り返りを記述した後、互いにどう感じたかを交流する時間を確保する。

## ５　本時の展開

### （１）本時のねらい

早めに登校し、校門でとおるが来るのをどきどきしながら待つ四人の思いを考えることを通して、友達との関わり方について自己を見つめ直し、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度を養う。

### （２）本時の学習展開

| | 学習活動 | ○主な発問　◎中心発問<br>・予想される児童の反応 | ○指導上の留意点<br>（※評価の観点） |
|---|---|---|---|
| 導入<br>4分 | 1.課題意識をもつ。 | ○友達とけんかをして困ったことはありませんか。その時、どのような気持ちでしたか。<br>・仲直りできないかな。もう友達でいられないのではないか。<br>・次会った時、どうなるのだろう。<br>・これまで仲良くできていたのに。<br>・あの時、謝っていれば良かった。<br>○みんなは友達と仲良くしたいんだよね。それなのに、どうして仲良くしたくても、仲良くできないのかな。<br>**友だちとなかよくするには？** | ○友達との関係で困った経験とその時の心情を交流することで、「確かに自分もどうすればよいか分からなくなったことがあるな。」と、本時のテーマを自分事として捉えることができるようにする。 |
| 展開前段<br>22分 | 2.「たっきゅうは四人まで」を読んで話し合う。 | ○「どうしよう。」と三人に相談したしゅんは、どのような気持ちだったでしょう。<br>・ぼくが悪かった。相手のことを考えていなかった。（後悔、相手の気持ち）<br>・とおるくんは、牛乳運びをしてくれるいい人なのに、僕はいやな気持にさせてしまった。（理解、後悔）<br>・どうしよう。謝った方がいいのかな。（困惑）<br>・もう友達でいられなくなるのかな。心配。（不安）<br>・ぼく一人の力じゃ無理だ。力を貸してほしい。（信頼、助け合う）<br>・とおるに許してもらって、これから仲良く過ごしたい。（未来、よりよい友達関係）<br>○「どうしよう。」としゅんに相談された三人は、どのような気持ちだったでしょう。 | ○後悔の思いや友達に助けを求める思い、今後の友達関係をよりよくしたいという主体的な思いのいずれかに目が向かない場合は、「しゅんは自分の言ったことに対して、どのように思っているのだろう。」「しゅんは、どうしてもう一度一人で謝らず、三人に相談したのだろう。」「みんなは友達と仲良くなりたいって言ったけれど、しゅんはどうなんだろう。」などと問い返し、心情理解を深める。<br>○相談された側の思いを別の視点で問うことで、多面的・多角的な理解をねらう。<br>○後悔や困惑の思いに目が向かない場合は、「三人は、自分達の行動に対して、どのように思っているのだろう。」「しゅんは、困っていたけど、三人は、どのような気持ちだっただろう。」などと問い返す。 |

| | | | |
|---|---|---|---|
| | | ・しゅんも悪いと思っていたんだね。一人で謝ってすごい。（理解）<br>・ぼくたちも、「いいよ。」と言えばよかった。とおるの気持ちを考えていなかった。（後悔、相手の気持ち）<br>・ぼくたちも、どうしたらよいかなと思っていた。（困惑）<br>・相談してくれて、うれしい。ぼくたちのことを頼ってくれている。（喜び）<br>・仲良くなるために、よい方法をみんなで考えよう。（助け合う、よりよい友達関係）<br>・これから、仲良くできる方法を考えよう。（未来、よりよい友達関係）<br><br>◎早めに登校し、校門でとおるが来るのをどきどきしながら待つ四人には、どのような思いがあったのでしょう。<br>・いいよと言えば良かった。（後悔）<br>・許してくれるかな。（不安）<br>・ぼくたちは、とおるの気持ちを考えていなかった。謝ろう。（相手の気持ち）<br>・みんなで考えたんだから、きっと気持ちは伝わるはずだ。（助け合う）<br>・謝って、とおると仲良くなりたい。（よりよい友達関係）<br>・次、遊ぶ時は、とおるの気持ちを聞いてから相談して遊ぼう。（未来、創造性） | ○「自分も困っている時に、相談されたらどのような気持ちになるかな。」と問い返し、「みんなで、共に、一緒に」考えようという助け合いに向かう心を引き出す。<br>○「謝るだけではなく、どうして五人で遊ぶことにしたのだろう。」と問い返すことで、許してもらいたいという心の奥には、相手の立場に立って真剣に考える態度や友達と仲良くなりたいという主体的な思いがあることについて、更に深める。<br>○発問に対して、四人の心情を深く考えることができるように、発問に合わせたワークシート（デジタル教材の道徳ノートを活用）を作成し、配付する。<br>○「この後（謝り、遊びに誘う）、どうなると思う？」と問うことで、この問題に真摯に向き合い、行動したことによる、明るい未来への想像を膨らませる。<br>○「このトラブルをきっかけにしゅんは、成長したと思いますか。」と問い返すことで、「相手の気持ちを考える。」「友達に相談すれば、助け合える。」「一人ではできなくても友達とならできる。」など、互いに理解し、信頼し、助け合う心情の深まりに気付くことができるようにする。 |
| **展開後段**<br><br>**10分** | ３．課題に対する考えを話し合う。 | ○「友だちとなかよくするには？」について、班で話し合いましょう。<br>・友達の気持ちを考え、行動する。<br>・困った時には、友達に相談し、一緒に考える（助け合う）。<br>・これから仲良くするためにできることを考える。 | ○課題に立ち返り、道徳的価値について自分達の言葉で言語化できるように、グループトークを活用する。その際、自分の意見をもって話し合いに臨めるように、グループトークの前に、個人思考を取り入れる。 |
| **終末**<br><br>**9分** | ４．自分を振り返る。 | ○今日の学習の振り返りを書きましょう。<br>・友達の気持ちを考えて助けたことがある。友達は喜んでいた。<br>・ぼくは、困っていた時に、友達に相談したことがある。一緒に考えてうまくいった。<br>・わたしも、これまで相談されてうれしかった。また相談されたら、一緒に考えたい。<br>・困ったことがあったら、友達を頼って相談できるようになりたい。<br>・もし友達の気持ちを考えずに行動してしまうことがあったとしても、ちゃんと謝って、これから仲良くなるためにできることを考えたい。 | ○児童が見通しをもって自分の考えを整理できるように、記述、ペア交流、全体交流のルーティーンを児童と共有しておく。<br>○「困った時は、友達を信じて相談してみたい。」「困っている友達を助けることができるようになりたい。」「友達と仲良くなるためにできることを考えたい。」など、よりよい友達関係を築いていこうとする主体的な態度を交流し、実践意欲を高める。<br>※友達との関わり方について自己を見つめ直し、よりよい友達関係を築くにはどうしたらよいか主体的に考えている。（発言、道徳ノート） |

## ６　板書計画

P148　　たっきゅうは四人まで

めあて　友だちとなかよくするには？

**友だちの気持ちを考え、行動する。**
**こまった時には、友だちに相だんし、いっしょに考える。**
**これからなかよくするためにできることを考える。**

友だちとけんかをしてこまったこと

・なかなおりできないかな。
・もう友達でいられないのかな。
・次会った時、どうなるのかな。
・なかよくしていたのに。
・あやまっておけばよかった。

不安　後かい

できない・・・

しゅん

・あやまろうかな。
・とおるの気持ちを考えていなかった。
・一人じゃむりだ。
・どうしたらいいか分からない。
・なかなおりしたい。

**どうしよう。**

**三人に相談**

どうすればいい？

**あやまって、次の日曜日にとおるをさそい、しゅんの家で五人で遊ぼう。**

三人

・「いいよ。」と言えばよかった。
・相だんしてくれてうれしい。
・何かいい方法を考えよう。
・これからなかよくしたい。

後かい

・いいよと言えばよかった。
・ゆるしてくれるかな。
・とおるの気持ちを考えていなかった。
・みんなで考えたんだから気持ちは伝わる。
・仲良くなりたい。
・次、遊ぶ時は、とおるの気持ちも考えて遊ぼう。